

石川県羽咋市にてRESASを活用した政策立案ワークショップを開催しました

平成29年3月
経済産業省中部経済産業局

石川県羽咋市にて、「地域経済分析システム（RESAS）」を活用した政策立案ワークショップを下記の通り実施した。経済統計や地域研究の専門家であり、全国の大学に先駆けてRESASを活用した授業「統計学で未来を見る」を実施されている金沢大学の松浦義昭専任講師の参加を得て、羽咋市の農業の六次産業化と平成29年7月にオープン予定の道の駅に係る課題を見える化し、作り手側、売り手側双方からの意見交換を行った。羽咋市職員、JAはくい職員、道の駅職員が課題を出し合い、能登半島の観光の入口の拠点としての機能とともに、地域商社機能のツールとして生産者、加工業者、地域住民が潤う道の駅のあり方について共有することができた。

1. テーマ：農業の六次産業化と道の駅
2. 日時：平成29年2月28日（火）13：30～16：00
3. 場所：石川県羽咋市役所401会議室
4. 主催：経済産業省中部経済産業局
5. 参加者
 - ・羽咋市長
 - ・羽咋市副市長
 - ・羽咋市役所 職員
 - ・石川県庁 職員
 - ・金沢大学 国際基幹教育院 専任講師 松浦義昭 氏
 - ・金沢大学 先端科学・イノベーション推進機構 特任助教 平子紘平 氏
 - ・道の駅のと千里浜 駅長 野間 仁 氏
 - ・道の駅のと千里浜 統括マネージャー 松田 義人 氏
 - ・会宝産業株式会社 常務取締役 櫻井 茂宏 氏
 - ・会宝産業株式会社 農業事業部 田中 雄輝 氏
 - ・はくい農業協同組合 農業振興課 職員
 - ・中小企業基盤整備機構北陸本部 職員
 - ・経済産業省中部経済産業局 RESAS 普及活用支援調査員
 - ・経済産業省中部経済産業局 職員
6. 議事次第
 - ①羽咋市職員による RESAS 分析結果の説明
 - ②金沢大学松浦専任講師による「RESAS から見た羽咋市」についての説明
 - ③中部経済産業局 RESAS 普及活用支援調査員による道の駅活性化事例と『道の駅のと

千里浜』の説明

④意見交換

1. ワークショップ実施の背景

- 羽咋市と JA はくい、木村秋則氏の協力のもと、3,4 年前から自然栽培に力を入れており、そのノウハウを学びに毎年県内外から 30 代を中心とした若者が羽咋市の農業塾へ集う。塾生の中には、実際に羽咋市へ移住する者もいる。羽咋市において、人口減少による高齢化が進展する中で、農業は域外から人を呼び込む魅力ある産業となっている。
- 他方で、羽咋市は、和倉温泉や輪島市などの他市町の観光地への通過地点という位置づけであり、域内に波及効果が及んでいないことが課題となっている。市としては、「道の駅」で地元産の農作物を販売することで、地元客によるにぎわいの創出とともに通過型観光から脱却したいと考えている。
- そこで、リーサスや他の統計データを活用した分析によって羽咋市の農業や観光関連産業を客観的にとらえ、「道の駅」の整備をきっかけにした地域循環をもたらす政策のあり方についてディスカッションを実施した。

2. 議論のポイント（意見交換での主な意見）

（いかに高付加価値のものをつくるか）

- 自然栽培により集まる若者が生計を立てられるような支援が必要。
- 道の駅のターゲットはまずは、地元客であり、地産地消にこだわり、子供たちの笑顔と健康のために自然栽培による農産物も手頃な価格での販売が必要ではないか。
- 「^{みこはら}神子原米」の例のように、商品の値段（価値）は市場（消費者）が決める。自然栽培は、①農地を集積させるのが困難で、②自然栽培従事者の増加（供給）に相当するだけの農作物の需要があるか未定である。そして、当地では③自然栽培を支えるのは、農業経験がゼロの地域おこし協力隊が中心になって担っている点が課題であり、非常にもどかしい。

（いかに売るか、買ってもらうか）

- 「道の駅のと千里浜」は、羽咋の自然栽培による農産物を中核としつつ、能登しし(猪)やお米など既存の様々な魅力的なコンテンツをそろえて、「羽咋市のインデックス」であるべき。また、能登地域の入り口として、「能登ミニ・インデックス」としての役割も期待されている。
- 「道の駅」を成功させるには、「何を売っているか」が重要。単に、地域で採れたものや、一般流通には乗せられない完成度の低い商品のみ販売することになっていないか。ここにしかない商品や、ここに行かないと情報が取れないようにすべき。
- 羽咋市の強みは、自然栽培を農協と生産者、市の三者が連携して取り組んでいる点。

自然栽培であるため収量は少ないが、強みを前面に押し出し、市場価値を高めブランド化することが必要。

(全体のストーリーについて)

- 羽咋市の魅力あふれる既存のコンテンツを繋げるためには、「ストーリー」が必要。その構築に当たっては、羽咋市の成り立ちや歴史から解きほぐしていき、そこから派生する話を紡いで道の駅に繋げていくことが出来るとよい。
- 羽咋市の魅力を伝えるコンテンツを繋げる「ストーリー」としては、「子供たちの未来」や「子供たちの笑顔」がある。行政、農協、農家、民間企業など、誰もが子供たちの未来のことを考えているからこそ、自然栽培の「聖地」と言うことができる。
- 「能登の里山海山」が世界農業遺産として認定されていることを最大限活かすべき。
- 観光と農業という点では、農業者と消費者が近い関係を作る必要があり、健康志向が強まる中、消費者が直接農家を選択し、消費者が時折、農場を訪れる「マイファーム」という手法が考えられる。
- 共通課題
 - ・ 観光客にのど里山海道から千里浜においてもらい、まずは道の駅に立ち寄ったあと、市内にどのように滞在してもらうか、観光客が生み出す経済的利益を、道の駅だけでなく市内に循環させる具体的方策が必要。
 - ・ 自然栽培の担い手には恵まれているが、誰をターゲットとして、いかにして生産物を消費させ、リピーターを確保し、生産者の生活を安定させるか。
 - ・ 生産者と小売業者としては、魚沼産コシヒカリよりも単価の高い高付加価値商品を生産しているという自負があり、ブランド化による高価格帯での販売を希望する。他方で、地域住民(消費者)としては、安価な商品を希望する。この折り合いをいかにつけるか、検討する必要がある。
 - ・ 2つの相反する希望を、如何にして叶えるかという課題に対しては、①生産性を向上させるための農地集積化、②農協の協力により、収穫量の少ない自然栽培を技術力向上によって補うことが考えられる。食材、お土産品などについて地元調達率を上げる工夫が重要。

3. 得られた結論、今後の方向性

- 道の駅に期待される役割
 - ・ (観光地だけでなく食材を含めた) 能登地域の観光情報の発信拠点
 - ・ 通過型観光からの脱却(能登地域の観光客を迎える玄関口)
 - ・ 観光客と住民の双方が利用する場
 - ・ 生産者である農家と消費者を結びつける出会いの場、農家と加工業者のマッチングの場といった「ステージ」づくり

- ・ 防災拠点
- 今後の展開
 - ・ 様々な市の課題が存在する中で、その課題を解決すべく重要な役割が「道の駅」に期待されている。全てを「道の駅」だけで解決することは出来ないため、客の対象、商品の単価、ブランディング等、マーケティングについてターゲットを絞り込んだ上で総合的に検討する必要がある。
 - ・ 行政、農協、民間企業、市民が一体となって観光や農業における羽咋の優れたリソースを連携させ具体的な施策の実現を図っていくことが確認された。



関係機関職員及び民間企業などの参加を得て、約60名で開催

【参考資料】

自治体職員による分析内容

(5)はくい式自然栽培による羽咋米の生産状況

■各地域のブランド米の比較

産地	羽咋市	佐渡市	南魚沼市
品名	羽咋米	朱鷺と暮らす郷	魚沼産コシヒカリ特別栽培米
価格	玄米5kg 6,210円	白米5kg 3,024円	白米5kg 4,720円
平成28年度作付面積	14ha	1,270ha	550ha
平成28年度収量	32t	3,400t	1,536t

出典：羽咋米の価格は、羽咋米づくり株式会社WEBサイトの金額を参照した。

佐渡市の朱鷺と暮らす郷の価格は、佐渡アンテナショップ(東京都千代田区丸の内)の金額を参照した。

南魚沼市の米は、魚沼産コシヒカリ特別栽培米の価格とし、新潟県アンテナショップ(東京都渋谷区)の金額を参照した。

佐渡市の「朱鷺と暮らす郷」の作付面積、収量については、JA佐渡市のホームページを参照した。

南魚沼市の作付面積、収量については、JA魚沼みなみからのヒアリングによる数値である。

佐渡市、南魚沼市の収量の数値はJAの集荷量であり、全体の生産量ではない。

【参考】

■羽咋市ブランド米：はくい式自然栽培米「羽咋米」
羽咋市内において、肥料・農薬・除草剤を問わずに、自然の力を最大限利用して大切に育てた自然栽培のお米である。

■佐渡市ブランド米：「朱鷺と暮らす郷」
「朱鷺と暮らす郷」米とは、平成20年から佐渡市で始めた「トキと暮らす郷」つくり認証制度に該当する栽培方法で作られたお米で、生き物を育む農法を取り入れ、冬でも田畑に水を張り、生き物が住める環境を作っている。また、農薬・化学肥料も通常の半分以下に抑えているお米である。

■魚沼産コシヒカリ特別栽培米
魚沼産特別栽培米コシヒカリは、新潟県内で農薬の使用回数及び化学肥料の使用量を通常栽培の5割以下に削減して栽培された農産物を特別栽培農産物として新潟県が認証したお米である。

■羽咋米は、佐渡の「朱鷺と暮らす郷」、「コシヒカリ特別米」と比較して、羽咋米の1kgあたりの単価が佐渡市の2倍、南魚沼市の1.3倍。

■羽咋米の現状

	平成27年	平成28年
農業経営者数	8人	19人
作付面積	-	13.5ha
総販売金額	-	1,920万円
作付面積1haあたり	-	1,391,304円
羽咋米 農家売渡価格	-	36,000円/袋
羽咋米 3kg	-	3,888円
羽咋米 5kg	-	6,210円
羽咋米 10kg	-	11,880円
羽咋米 1kgあたり	-	1,296円

出典：羽咋市

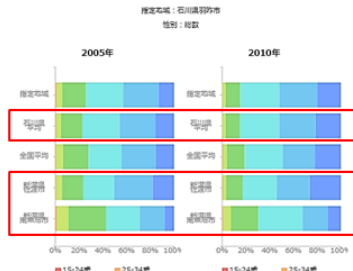
①羽咋米を生産する農業経営者は、
8人（平成27年）⇒19人（平成28年）と増加

②平成28年度羽咋米の農家売渡価格は**36,000円**であり、佐渡**16,997円**、
南魚沼市**20,863円**を大きく超えた**高価格**となっている

マーチャндаイジング（お客様に商品を買っていただくために、商品の企画・開発や調達、商品構成の決定、販売方法やサービスの立案、価格設定）が重要

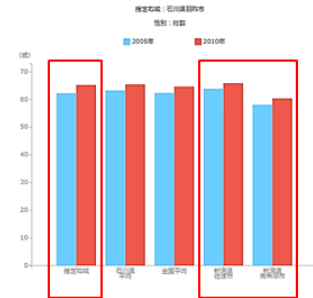
(6)農業者の状況 農業者分析

農業経営者の年齢構成



【出典】
農水省「農村センサス」調査結果
【注記】
農業経営者：自治体別の農業経営者に責任を持つ者を行い、農家に従事する労働者の指導や行政上の事務を担当する。
農業従事人口：農業に従事している者を出し、農業を主として従事しない者を除く。

農業経営者の平均年齢



【出典】
農水省「農村センサス」調査結果

■2010年 農業経営者の年齢構成

年齢構成	羽咋市	佐渡市	南魚沼市	石川県	全国平均
15-24歳	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
25-34歳	0.3	0.5	0.8	0.3	0.5
35-44歳	2.8	2.8	6.4	2.6	3.4
45-54歳	12.3	14.1	23.3	12.1	15.1
55-64歳	32.8	28.5	37.3	33.2	32.1
65-74歳	32.0	27.8	21.2	30.5	27.2
75歳以上	19.8	26.2	10.9	21.4	21.7

平均年齢 65才 66才 60才 65才 66才

「羽咋米」生産者の平均年齢 **51歳**

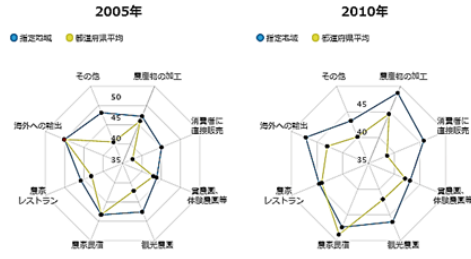
- ①羽咋市の農業経営者の年齢構成は、65-74歳が32.0%、75歳以上が19.8%、合計**51.8%**であり、就農者人口の**半数以上が65歳**
- ②佐渡市は、65-74歳が27.8%、75歳以上が26.2%、よって、65歳以上が**54.0%**であり、羽咋市よりやや就農者の高齢化が進行
- ③平均年齢をみると、南魚沼市は60歳、羽咋市は65歳となっており、平均年齢が5歳も若い。
- ④羽咋米生産者の平均年齢は**51歳**であり、本市の平均年齢（65歳）より**14歳も若い**

地域外から、羽咋市で自然栽培農産物の栽培を希望する若い就農者（移住者）が増加している。

(7) 6次産業化などの取組状況

農業生産関連事業の実施状況（レーダーチャート）

推定地域：石川県羽咋市

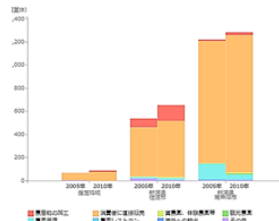


【出典】
農林水産省「農林統計センサス」調査結果

【注記】
レーダーチャートは各項目の平均値を示している。数値が異なる場合は異なる値を示す。
数値がない場合は青い点が表示。

農業生産関連事業の実施状況（経営体数）

推定地域：石川県羽咋市



■2010年農業生産関連事業の実施状況 単位：経営体数

出荷先	羽咋市	佐渡市	南魚沼市
農産物の加工	12	137	26
消費者に直接販売	77	486	1,189
貸し農園・体験農園等	0	6	8
観光農園	0	4	9
農家民宿	0	15	41
農家レストラン	0	0	7
海外への輸出	0	0	0
その他	0	7	6

- ①羽咋市の農業生産関連事業の実施状況（レーダーチャート）を見ると、石川県と同水準、または、それ以上の水準
- ②佐渡市や南魚沼市は、「農産物の加工」、「消費者に直接販売」に取り組む経営体が羽咋市より多い
- ③佐渡市や南魚沼市は「農家民宿」や「観光農園」なども多く、農産物のブランド化が進むと、地域内の6次産業化が進む

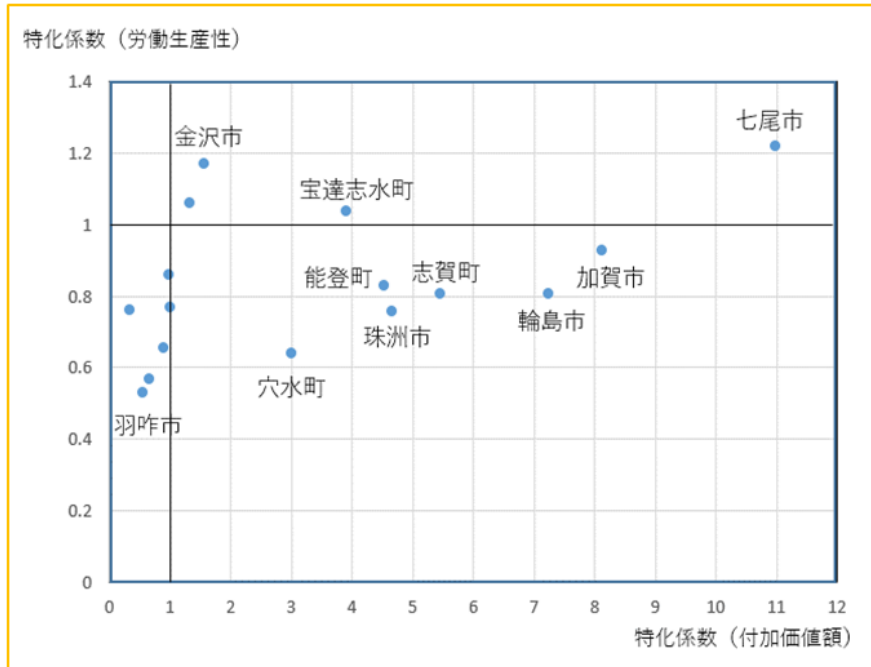


6次産業化の推進のための「多様な販路」と「価格設定」は、今後、生産者、JAはくい、道の駅、市の4者で組織した「はくい式自然栽培実行委員会」において推進



域内及び域外の消費拡大！

石川県における宿泊業の特化係数散布図 (RESASのCSVデータより作図)

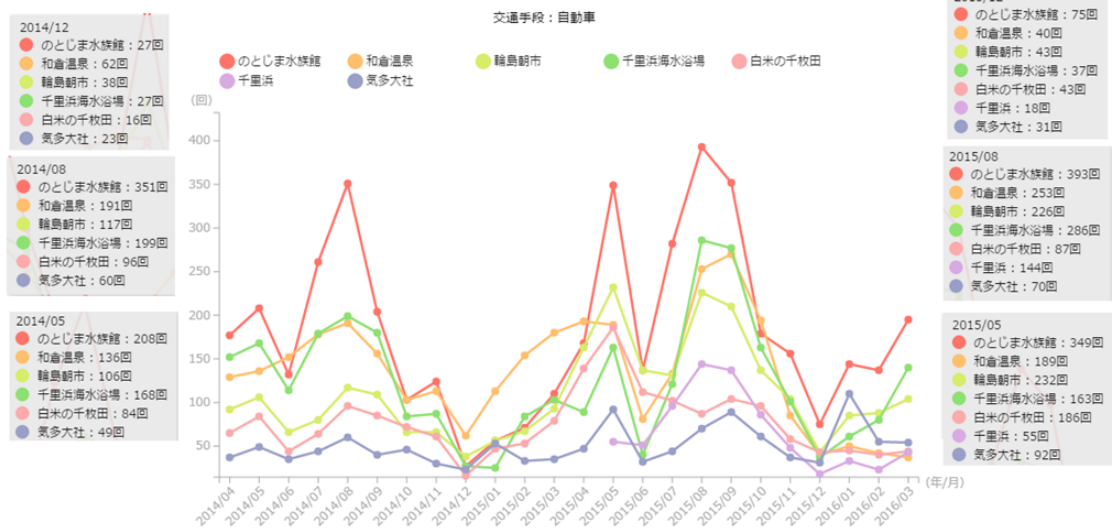


能登地域の目的地分析 (2015年・休日・自動車)

目的地検索ランキングの推移

表示年月: 2014年4月 ~ 2016年3月 (休日)

指定地域: 石川県羽咋市、石川県七尾市、石川県輪島市、石川県珠洲市、石川県志賀町、石川県宝達志水町、石川県中能登町、石川県穴水町、石川県能登町



観光振興と地域経済の考え方

- ★「観光」は経済・文化において地域貢献が出来る裾野の広い産業
- ★「観光振興」は、それぞれの要素ごとに細かい施策が必要

地域の総観光生産額 (観光による地域経済へのインパクト)

= **地域の総観光消費額** × **地域での調達率**

(観光による地域の売上高) (地域のもをどれだけ使うか?)

(仕入) 食材・土産品・雇用・その他サービスなど

地域の総観光消費額 (観光による地域の売上高)

= **一人当たり観光消費額** × **観光入込客数**

(「観光」客単価) (「観光」客数)

宿泊・食事・交通・入場観光・土産品など
= 買ってもらうための工夫
国内客・海外客・団体客・個人客
宿泊客・日帰り客など
= 自地域が選ばれる為の工夫

平成29年2月8日下呂WS 首都大学東京 清水哲夫教授発表より一部引用

あるツアー企画担当者の悩み

海がない県のある旅行会社でのツアー企画担当者の悩み・・・
(発地：北陸地域が日帰り・1泊圏内の海なし県)

- ・お客様からの要望は「地元で食べれないような美味しい海の幸を食べたい」
- バスガイドさんに相談

かほく市の料理民宿を紹介される

- ・地物メインの海の幸
- ・水揚げによって提供料理が変わる
- ・料理のボリュームが多い

→そのツアーは
旅行会社でのベストセラーに。

このツアーのおすすめポイント

- ・ 質・ボリュームに自信の昼食！料理自慢の民宿で海の幸を満喫。朝食抜きでの参加をオススメします!!のどくる炭火焼きまつます♪
- ・ 美しい街並みが残るひがし茶屋街や、活気溢れる近江町市場など金沢の見どころもご案内。

スケジュール		コース	食事
1日目	各地5:30～7:50 = ハイウェー = 金沢森本 = 魚料理・民宿やまじゅう (質・ボリュームに自信あり。料理自慢の民宿。のどくる炭火焼き付き海鮮料理の昼食) = 千原浜海岸 = 金沢 [近江町市場 (海産物のお買物) = ひがし茶屋街 (美しい出格子の街並みが残る)] = ハイウェー = 19:10～21:30 案内各地		昼

以上